



株式会社 **ニコン**
広報・IR部

2014年3月期 第1四半期 決算説明会

2013年8月8日
株式会社ニコン

※本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現在における入手可能な情報に基づき当社が判断した内容であり、潜在的リスク及び不確実性が含まれます。従いまして、様々な要因の変化によって、実際の業績は記述されている内容と大きく乖離する結果となる可能性があることをご承知おきください。

Agenda

- I . 2014年3月期 第1四半期の概況**
- II . 2014年3月期の見通し
- III . 参考データ

◆前年1Q比、会社全体では 205億円減収、173億円営業減益。 半導体・液晶露光装置の販売台数減少が主因

【精機】

- ・半導体露光装置は市場縮小の影響を受けて販売台数減少
- ・前年比 182億円減収、117億円減益

【映像】

- ・計画比では、米・欧・アジア(中国除く)のカメラ市況が低迷し、これらの地域向けの販売は未達。中国は、市況は悪かったが計画も保守的としたため、ほぼ計画どおりの販売実績。日本の販売は好調。結果、販売台数・売上・利益ともに計画を下回った
- ・前年比 26億円減収、51億円減益

【インストルメンツ】

- ・バイオサイエンス分野での公共予算増加などで、前年比8億円増収、赤字幅は 1億円縮小

2014年3月期 第1四半期 連結売上高・損益

株式会社ニコン
広報・IR部



単位: 億円	13年3月期 1Q	14年3月期 1Q	前年実績比
売上高	2,594	2,389	▲205
営業利益 売上高比	233 9.0%	60 2.5%	▲173
経常利益 売上高比	234 9.0%	51 2.1%	▲183
当期純利益 売上高比	157 6.1%	44 1.8%	▲113
FCF	▲2	110	+112
為替:ドル ユーロ	80円 103円	99円 129円	売上高への影響額 +356 営業利益への影響額 +52

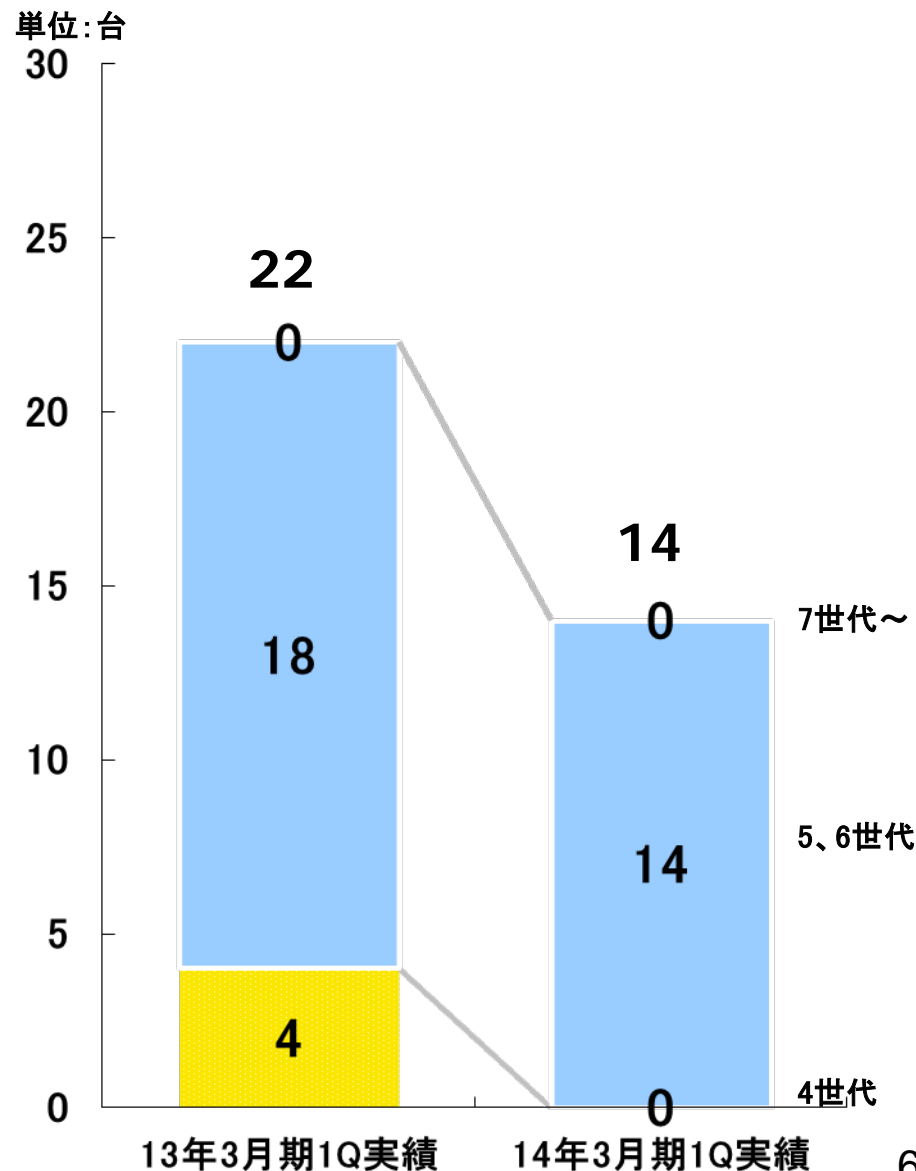
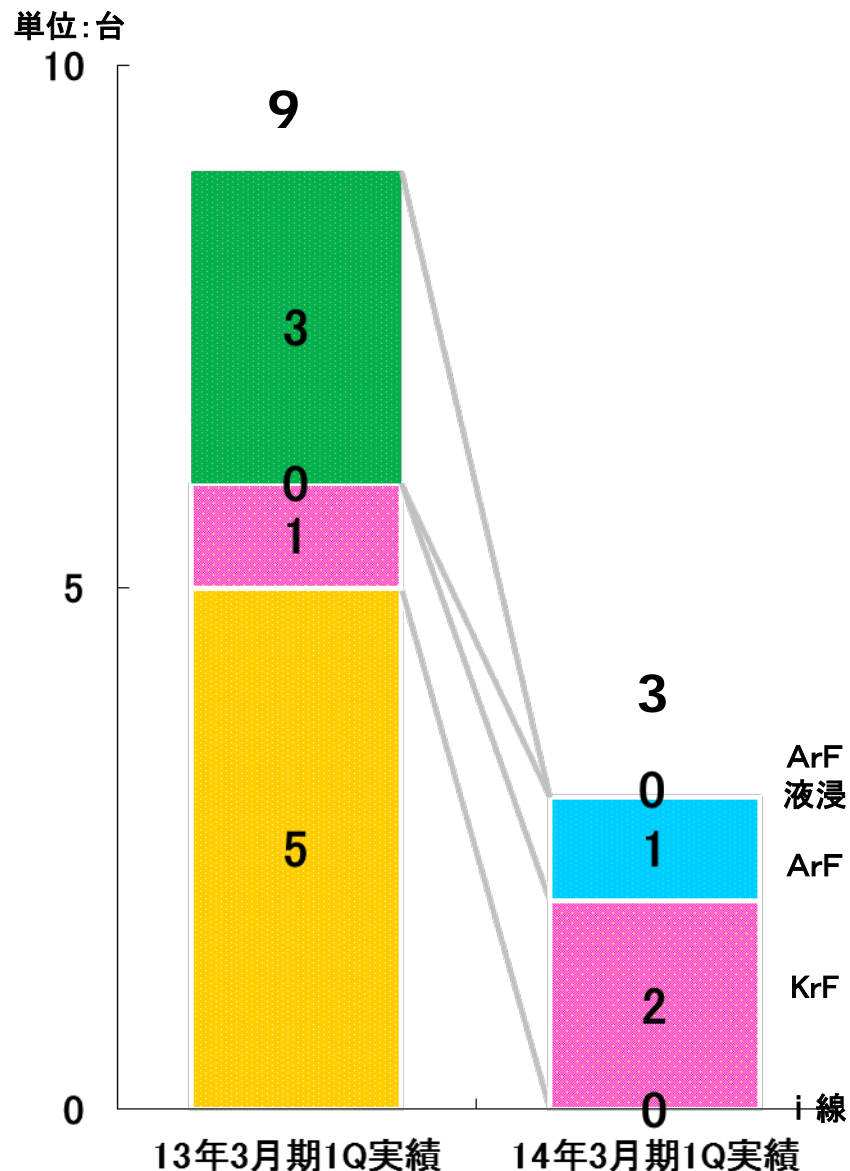
半導体露光装置の市場縮小などにより、前年比減収・減益

* スライドで使用している数値は億円未満は切り捨ててあります。

単位: 億円	13年3月期 1Q	14年3月期 1Q	前年実績比
売上高	522	340	▲182
営業利益 売上高比	102 19.5%	▲15 —%	▲117
半導体露光装置 新品/中古	6/3台	2/1台	▲4/▲2台
液晶露光装置	22台	14台	▲8台

半導体露光装置は極めて少ない販売台数。コストダウンなどの収益改善施策を進めたが、事業全体では赤字

半導体露光装置光源別販売台数(中古含む) 液晶露光装置世代別販売台数



単位: 億円	13年3月期 1Q	14年3月期 1Q	前年実績比
売上高	1,901	1,875	▲26
営業利益	196	145	▲51
売上高比	10.3%	7.7%	
レンズ交換式 デジタルカメラ	167万台	159万台	▲8万台
交換レンズ	230万本	224万本	▲6万本
コンパクト デジタルカメラ	443万台	312万台	▲131万台

レンズ交換式カメラと交換レンズの市場(出荷台数ベース)は前年比二桁%縮小したが、当社の販売台数は一桁%の減少にとどまった。コンパクトタイプの市場は約半減、当社も3割減を余儀なくされた



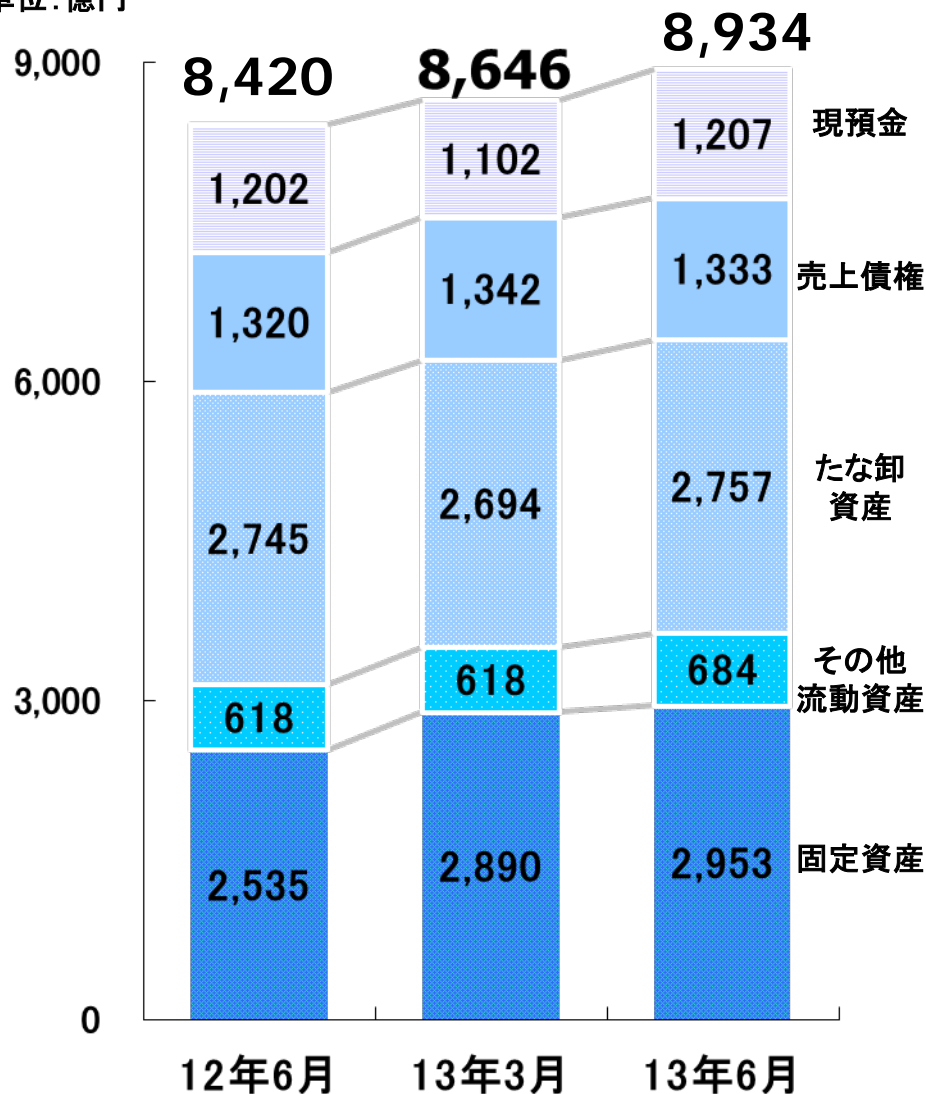
単位：億円	13年3月期 1Q	14年3月期 1Q	前年実績比
売上高	108	116	+8
営業利益 売上高比	▲24 —%	▲23 —%	+1

バイオサイエンス分野は主に米国での公共予算増加で増収、
産業機器分野は半導体・電子部品向け設備投資減少で減収

2014年3月期 第1四半期 B/S内訳

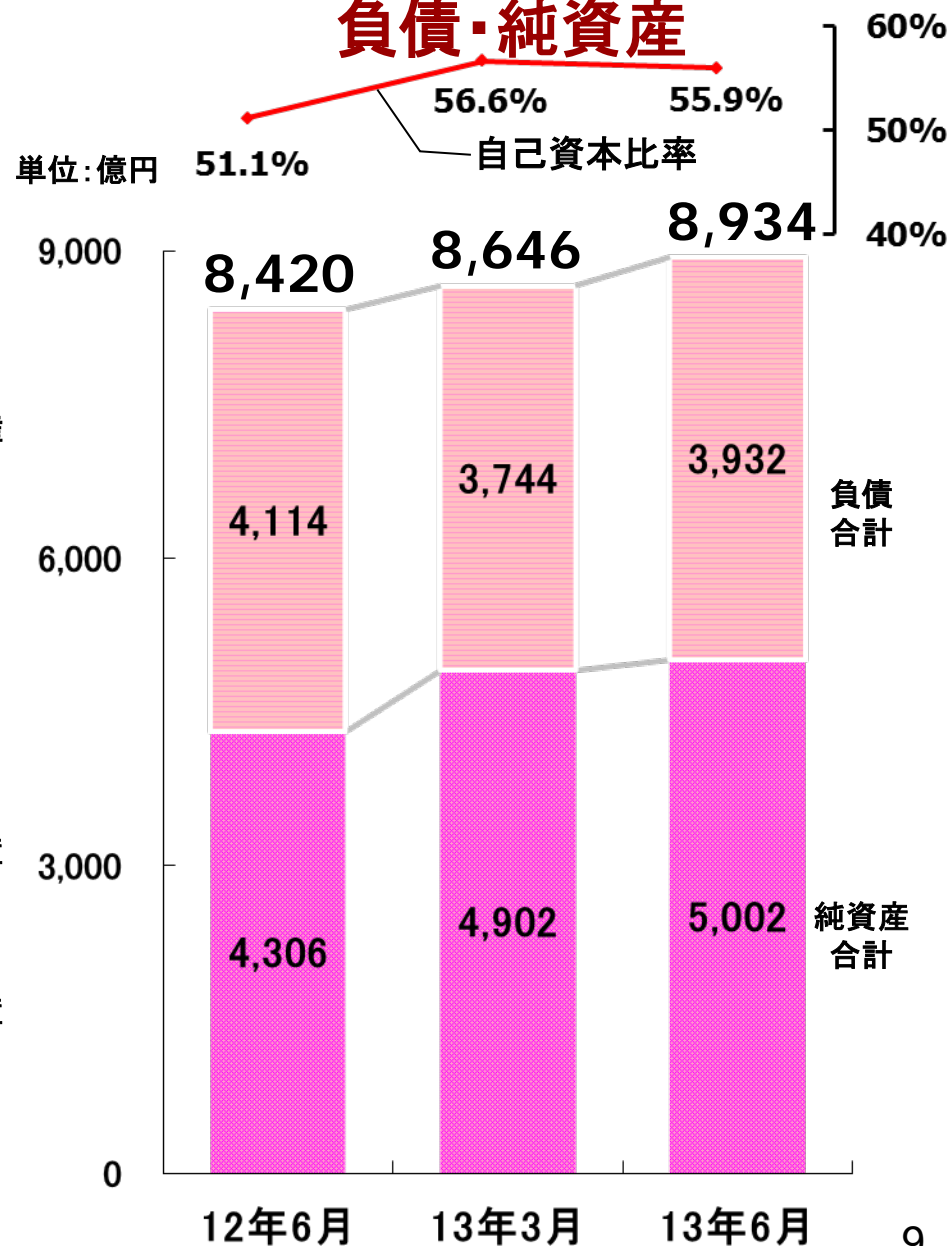
資産

単位: 億円



負債・純資産

単位: 億円



Agenda

- I. 2014年3月期 第1四半期の概況
- II. 2014年3月期の見通し**
- III. 参考データ

2014年3月期 見通しポイント

◆ 映像事業の見通しを変更し、会社全体の売上高・各利益を下方修正。会社全体では、前年比 3%増収、27%営業増益の計画

【精機】

半導体露光装置への投資は冷え込んでいるが、下期には回復傾向となる見通し。液晶露光装置は市場が拡大し、引続き高いシェアを確保する計画。前回予想を据え置く。17%増収、23%増益の見通し

【映像】

今期の市場予想を見直し、販売台数、売上高、営業利益を下方修正。微減収、22%増益の見通し

【インストルメンツ】

バイオ分野は公共予算の回復に加え、一般向け研究・臨床用生物顕微鏡のシェア拡大を、産業分野では自動車・航空機産業など新たな需要の取り込みを図る。前回予想を据え置く。17%増収、赤字幅縮小の見通し

◆ 年間配当金の予定を、41円から 32円に変更。
中間配当金の予定(10円)は据え置く

2014年3月期 見通し 連結売上高・損益

単位: 億円	13年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (5/9)	上期 下期	14年3月期 見通し	上期 下期	前年 実績比	前回 予想比	上期 下期
売上高	10,104	$\frac{4,972}{5,132}$	11,100	$\frac{5,070}{6,030}$	10,400	$\frac{4,770}{5,630}$	+296	▲700	$\frac{\Delta 300}{\Delta 400}$
営業利益	510	$\frac{371}{139}$	850	$\frac{250}{600}$	650	$\frac{145}{505}$	+140	▲200	$\frac{\Delta 105}{\Delta 95}$
売上高比	5.0%		7.7%		6.3%				
経常利益	483	$\frac{395}{88}$	850	$\frac{250}{600}$	630	$\frac{125}{505}$	+147	▲220	$\frac{\Delta 125}{\Delta 95}$
売上高比	4.8%		7.7%		6.1%				
当期純利益	424	$\frac{320}{104}$	650	$\frac{160}{490}$	500	$\frac{80}{420}$	+76	▲150	$\frac{\Delta 80}{\Delta 70}$
売上高比	4.2%		5.9%		4.8%				
FCF	▲132		500		400		+532	▲100	—
為替 ドル	83円	$\frac{79円}{87円}$		95円	96円	$\frac{97円}{95円}$			
ユーロ	107円	$\frac{101円}{114円}$		125円	126円	$\frac{127円}{125円}$			

映像事業の見通し変更に伴い、通期の売上高と各利益を下方修正する

2014年3月期 見通し 精機カンパニー

単位: 億円	13年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (5/9)	上期 下期	14年3月期 見通し	上期 下期
売上高	1,790	$\frac{804}{986}$	2,100	$\frac{800}{1,300}$	2,100	$\frac{800}{1,300}$
営業利益 売上高比	130 7.3%	$\frac{72}{58}$	160 7.6%	$\frac{\blacktriangle 20}{180}$	160 7.6%	$\frac{0}{160}$
半導体露光装置 新品/中古	25/15台	$\frac{9/5}{16/10}$	38/15台	$\frac{10/7}{28/8}$	37/15台	$\frac{10/7}{27/8}$
液晶露光装置	43台	$\frac{25}{18}$	50台	$\frac{33}{17}$	50台	$\frac{33}{17}$
半導体露光装置 市場規模 CY12/13	222台		200台程度		200台程度	
液晶露光装置 市場規模 CY12/13	66台		80台程度		80台程度	

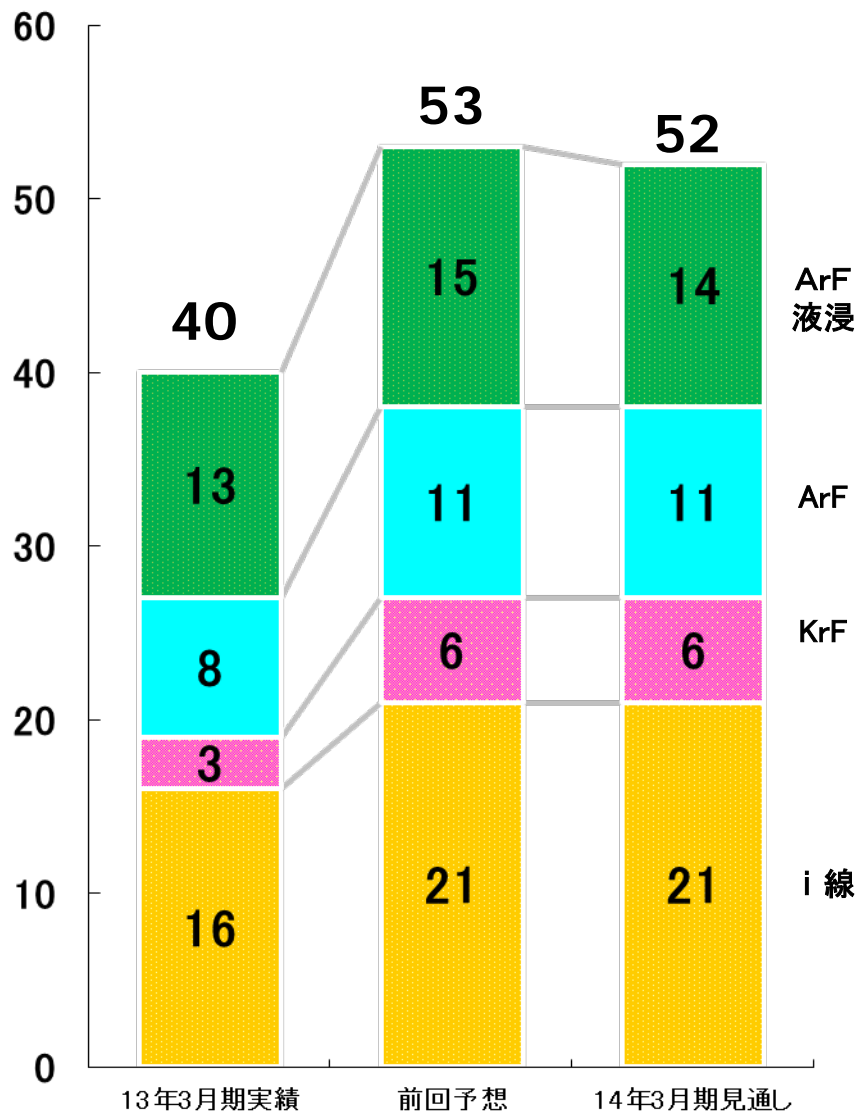
半導体露光装置は、市場縮小のなか、競争力向上により台数増加の計画。
液晶露光装置は市場が回復し、引続き高いシェアを確保

2014年3月期 見通し 精機カンパニー

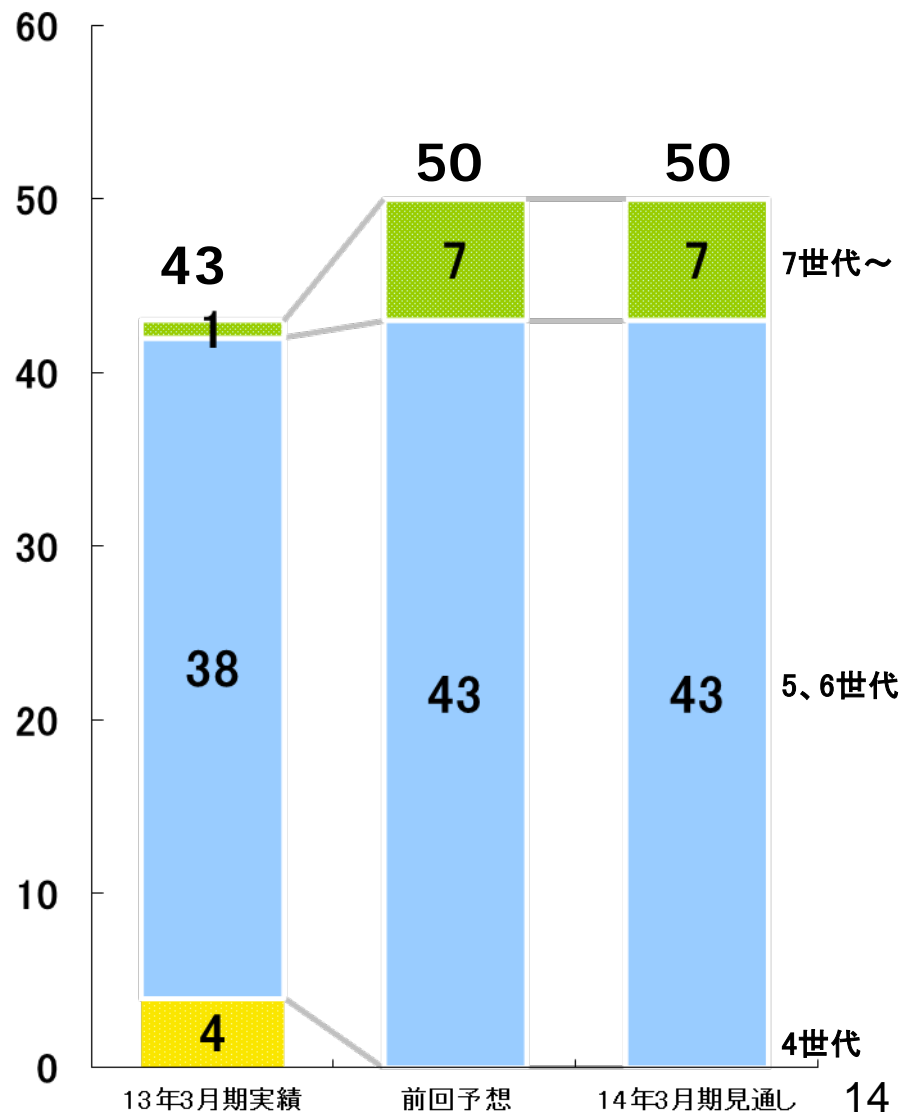


半導体露光装置光源別販売台数(中古含む) 液晶露光装置世代別販売台数

単位:台



単位:台



◆事業環境の変化(前回予想比)

- ・米州・欧州・アジア(中国除く)のカメラ市況は、通年に渡り想定を下回る見通し
- ・中国は、下期に想定していた景気回復が遅れる見通し
- ・コンパクトの市場縮小は想定以上
- ・ノンフレックスは、市場拡大が急減速
- ・市中在庫の正常化は想定より遅れているが、下期には在庫調整が進み、価格下落が緩和する見通し

◆環境変化に対するニコンの施策

- ・販売台数・シェアは追わず、下期にかけて営業利益率を改善する
- ・一眼レフは、エントリークラスで新製品へのシフトを加速
- ・Nikon 1(ノンフレックス)は、商品計画を見直す。今期のレンズ交換式カメラを55万台下方修正するが、その大半はNikon 1
- ・コンパクトは、新製品の開発計画を見直す。過去数年はシェアを拡大してきたが、今期の販売計画は市場以上の減少幅とする。利益水準は今後も確保していく計画

2014年3月期 見通し 映像カンパニー

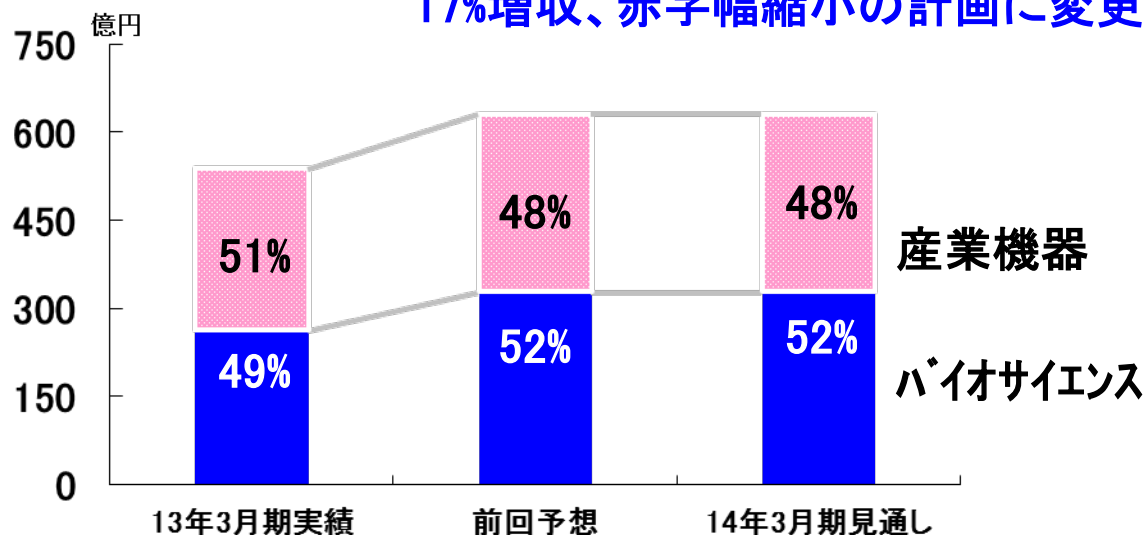
単位: 億円	13年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (5/9)	上期 下期	14年3月期 見通し	上期 下期
売上高	7,512	$\frac{3,810}{3,702}$	8,100	$\frac{3,900}{4,200}$	7,400	$\frac{3,600}{3,800}$
営業利益 売上高比	607 8.1%	$\frac{418}{189}$	940 11.6%	$\frac{420}{520}$	740 10.0%	$\frac{285}{455}$
レンズ交換式 デジタルカメラ	698万台	$\frac{345}{353}$	710万台	$\frac{340}{370}$	655万台	$\frac{300}{355}$
交換レンズ	971万本	$\frac{477}{494}$	980万本	$\frac{470}{510}$	905万本	$\frac{420}{485}$
コンパクト デジタルカメラ	1,714万台	$\frac{826}{888}$	1,400万台	$\frac{650}{750}$	1,150万台	$\frac{560}{590}$
レンズ交換式デジタル カメラ市場規模	1,923万台		2,100万台		1,950万台	
交換レンズ 市場規模	2,964万本		3,200万本		3,000万本	
コンパクトデジタル カメラ市場規模	6,808万台		6,000万台		5,000万台	

上期から下期にかけて、エントリークラスの一眼レフで新製品へのシフトを進め、事業全体の営業利益率を改善させる計画（上期:7.9% → 下期:12.0%）

2014年3月期 見通し インストルメンツカンパニー

単位: 億円	13年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (5/9)	上期 下期	14年3月期 見通し	上期 下期
売上高	538	$\frac{237}{301}$	630	$\frac{270}{360}$	630	$\frac{270}{360}$
営業利益 売上高比	▲49 —%	$\frac{▲29}{▲20}$	▲15 —%	$\frac{▲25}{10}$	▲15 —%	$\frac{▲25}{10}$

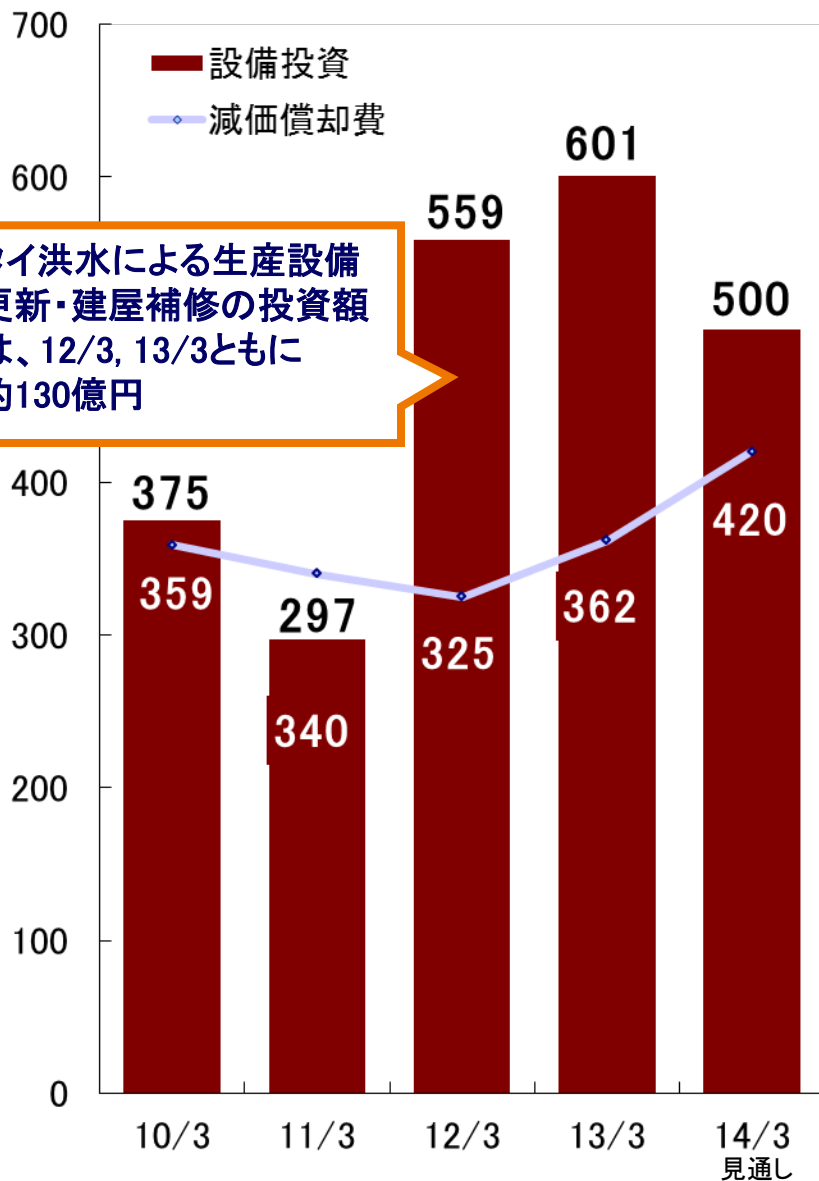
非接触三次元測定機やX線検査装置は、中期的な成長製品と位置づけており、自動車・航空機等をターゲットに販売拡大を図る。17%増収、赤字幅縮小の計画に変更なし





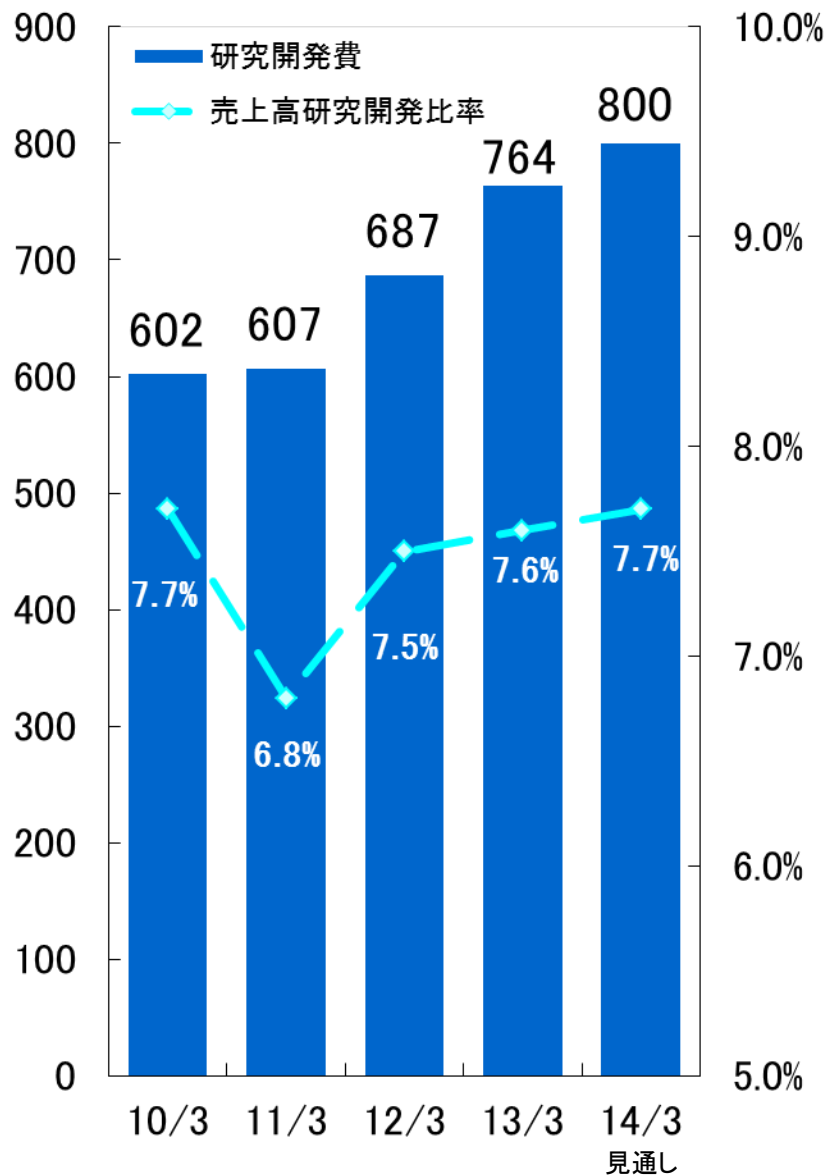
設備投資・減価償却費

億円



研究開発費

億円



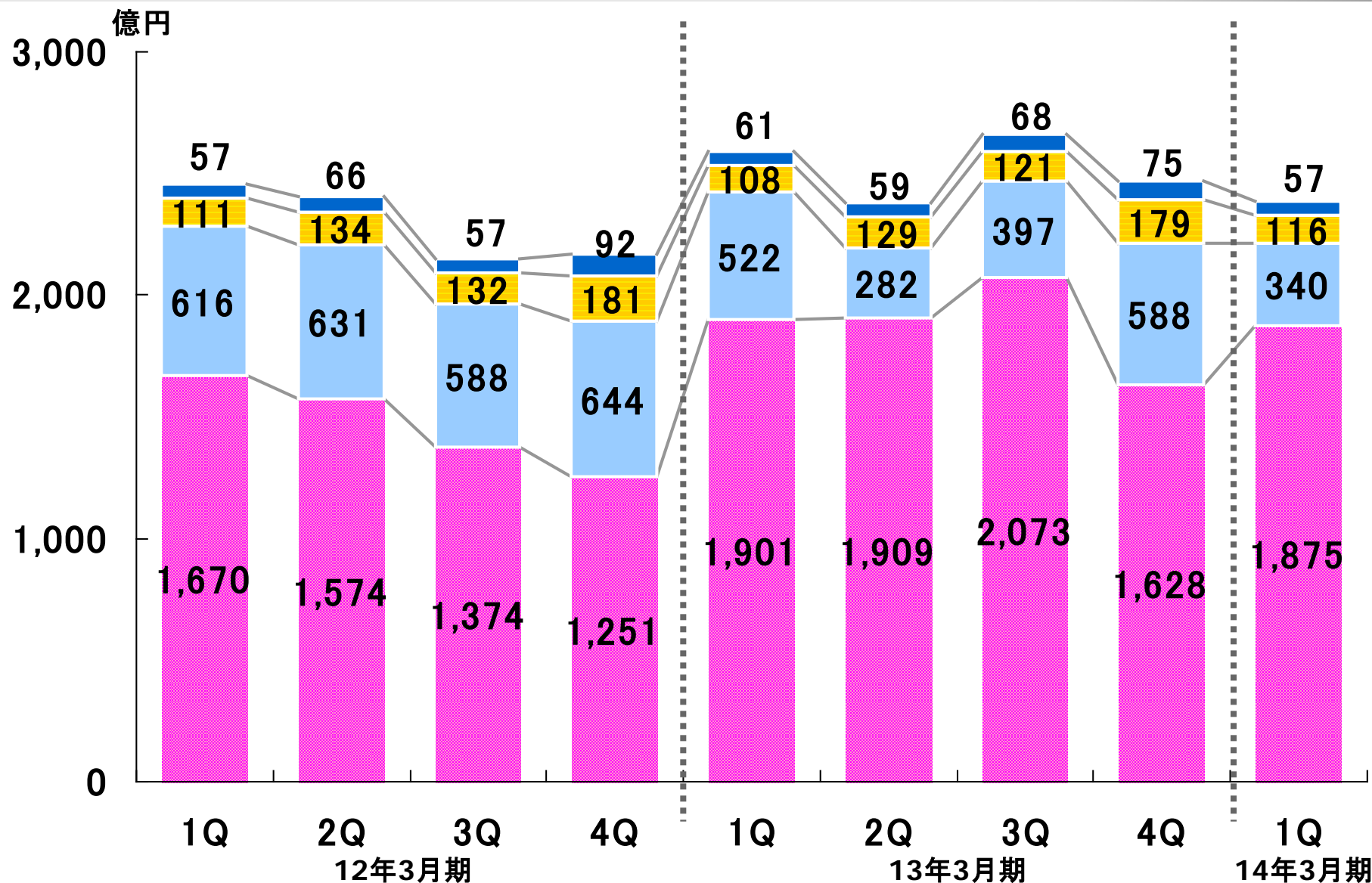
Agenda

- I. 2014年3月期 第1四半期の概況
- II. 2014年3月期の見通し
- III. 参考データ**

2014年3月期 見通し

	為替レート	1円の変動による影響額	
	14年3月期 2Q～4Q前提	売上高 2Q～4Q	営業利益 2Q～4Q
USDドル	95円	約 44億円	約 3億円
ユーロ	125円	約 17億円	約 11億円

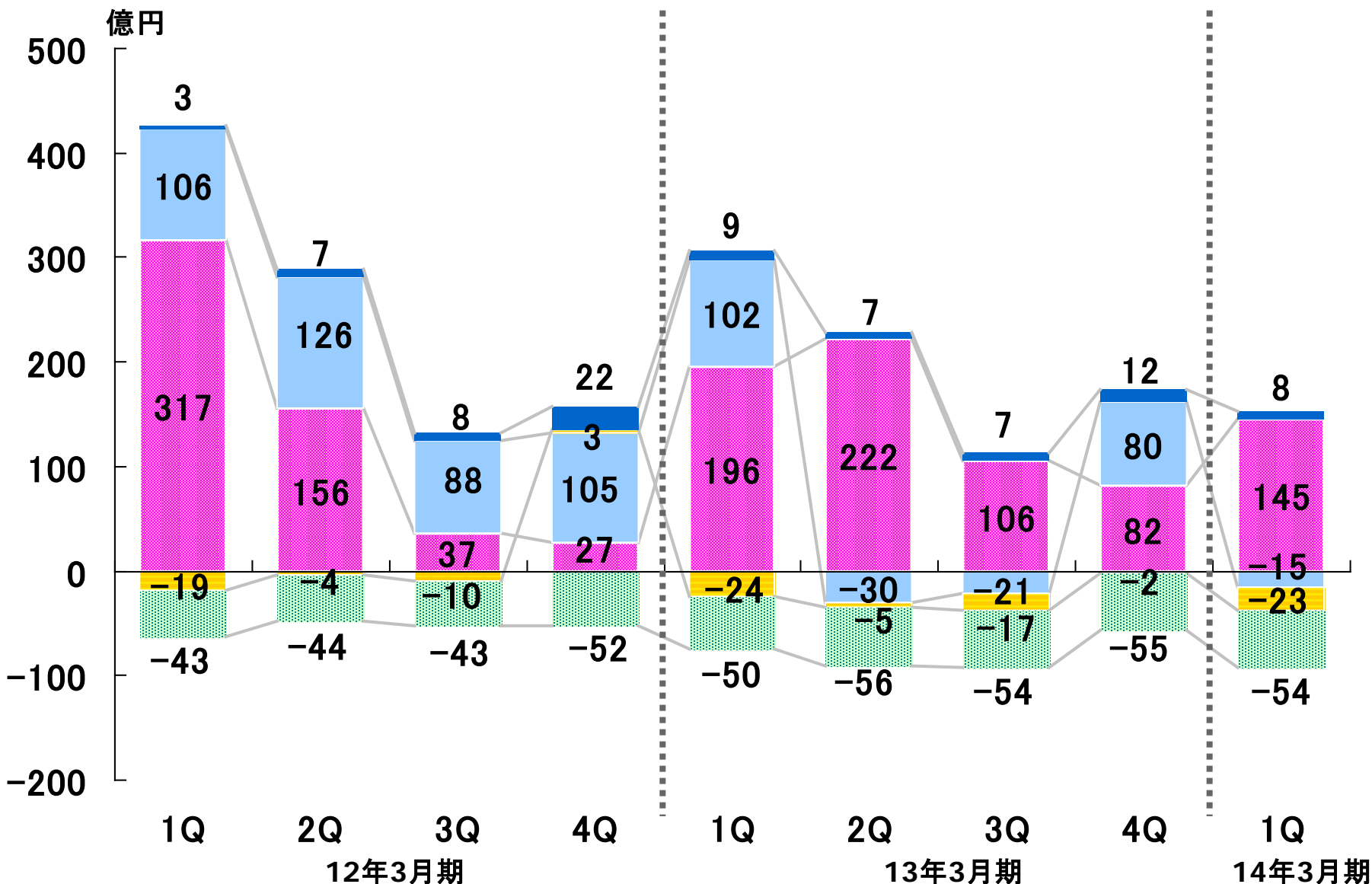
参考データ 四半期セグメント別売上高推移



■ 映像カンパニー ■ 精機カンパニー ■ インストルメンツカンパニー ■ その他の事業

* スライドで使用している数値は億円未満は切り捨ててあるため、内訳の計が合計と一致しない場合があります。

参考データ 四半期セグメント別営業利益推移



■ 映像カンパニー ■ 精機カンパニー ■ インストルメンツカンパニー ■ その他の事業 ■ 全社費用

* スライドで使用している数値は億円未満は切り捨ててあるため、内訳の計が合計と一致しない場合があります。



NIKON CORPORATION